

令和6年度南アルプス市立八田中学校 自己評価書 令和7年2月10日(月)

学校長:川手 昌英

記述者:教頭 渡辺 浩二

【小中一貫校八田小中学校の教育】

1. 教育目標 「ふるさとの未来(あす)を創造する児童生徒の育成」
～知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指して～
2. 『八田 Children first』 「明るい 伸びゆく 夢みる」児童から「未来を展く 理想は高く 世界をめざす」生徒へ
小中一貫校八田小中学校の教育は、【八田 Children first】をコンセプトに『1. 学習をつなぐ 2. 児童生徒をつなぐ 3. 教職員をつなぐ 4. 学校・家庭・地域をつなぐ』の4つの『つなぐプロジェクト』を柱とし、義務教育9年間で「途切れのない連続させた教育」となるよう取り組みます。
3. めざす児童生徒像
 - ふるさとの魅力を感じ、大切に思う児童生徒
 - 確かな知識をもつ児童生徒
 - 心身ともに健康で、たくましく生きる児童生徒
 - 豊かな人間性を持ち、他をいたわることのできる児童生徒
4. 目標達成のための施策
 - 4-1 学習をつなぐ
 - ①9年間を見通した教育課程の編成をします。
 - ②児童生徒が主体的に学習に取り組み、互いの考えを伝え合う力を養います。
 - ③授業における学習スタンダード(学習モデル、学習規律等)を共有します。
 - ④全国学力調査の分析や家庭学習の取組などを共有し、学力向上対策に取り組みます。
 - ⑤中学校教諭が小学校において、乗入授業や出前授業を行います。
 - 4-2 児童生徒をつなぐ
 - ①児童会活動、生徒会活動の交流を図ります。
 - ②中学校部活動部員等が小学校催し物へ参加したり、技術指導をしたりします。
 - ③児童が中学校の授業や催し物へ参加したり、見学したりする機会を持ちます。
 - ④お互いに合唱を交流し合います。
 - ⑤児童会と生徒会が合同で『いじめ0宣言』を発出し、取り組みます。
 - 4-3 教職員をつなぐ
 - ①「学習指導部」「児童生徒交流部」「児童生徒支援部」「教育課程編成部」の4分科会で構成される小中一貫教育推進研究会に全教職員が参加し、小中一貫教育を推進します。
 - ②小中それぞれの校内研究に可能な範囲で参加し、情報等を共有し合います。
 - ③児童生徒理解(含 特別支援教育)を深め、指導の一貫性を図るために、情報共有を行います。
 - ④小中養護教諭間で児童生徒の心身における情報共有を行います。
 - ⑤小中管理職(含 教務主任)会を定期的に開催し、小中一貫教育に関わる連絡調整および情報交換を行います。
 - 4-4 学校・家庭・地域をつなぐ
 - ①八田地区を中心とする地域の「ひと・もの・こと」を生かした体験的な学びを実践します。
 - ②学校運営協議会と連携して、学校経営を進めます。
 - ③地域学校協働本部と連携し、学校応援団や外部講師を教育活動に活用します。
 - ④児童生徒が地域行事へ参加できる体制をつくります。
 - ⑤八田地区「教育を語る会」を、学校運営協議会と連携して開催し、地域とのつながりを深めます。
- VI 目標達成のための学校および教職員の在り方
 - 1 めざす学校像
 - ①夢と希望が育まれる学校
 - ②安心して安全に生活できる学校
 - ③家庭や地域と協働する開かれた学校
 - 2 めざす教職員像
 - ①児童生徒に夢や希望をもたせる教職員
 - ②目標をもち、チャレンジする教職員
 - ③地域の声に耳を傾け、協働できる教職員

I 全体評価

I. 教職員の自己評価 (19名実施)

(1) 自己評価の特徴

① A・B(肯定的評価)の合計が100%の項目について

- 2:児童生徒は楽しく学校生活を送っている
- 6:学習のアイテムなどを活用して、「主体的、対話的で深い学び」への授業改善に努めている
- 8:小笠原流礼法や立腰教育を意識した、心と体のバランスの取れた児童生徒の育成に努めている
- 14:外部機関と連携し児童生徒の健全育成に努めている
- 16:生徒の安全が確保されるように、防災教育、防犯・交通安全などの安全指導に努めている

A・B(肯定的評価)の合計が80%未満の項目について

- 10:小中の児童生徒の交流や職員の交流を積極的に行っている (73% → 72%)
- 12:情報化社会に対応した児童生徒を育成するため、タブレットやスマートフォン等の利用に関わるモラル教育、リテラシー教育を行っている (89% → 77%)

② D(否定的評価)がついた項目について

- 7:計画的な家庭学習の手立てをしている (1人)
- 10:小中の児童生徒の交流や職員の交流を積極的に行っている (1人)

③ 昨年度学校評価との比較(改善した項目、悪化した項目) (R5→R6の変化)

○ 改善した項目

- 15:地域の人材や施設を利用するなどの、地域の教育力を生かした教育活動を行っている (73% → 83%)

● 悪化した項目

- 12:情報化社会に対応した児童生徒を育成するため、タブレットやスマートフォン等の利用に関わるモラル教育、リテラシー教育を行っている (89% → 77%)

2. 生徒アンケート (139名実施)

(1) 生徒アンケートの特徴

① A・B(肯定的評価)の合計が80%以上の項目について

18項目(睡眠時間、携帯・スマホに関わる質問項目は除外)中、14項目において、肯定的評価が80%以上となっている。また、そのうち約11項目で肯定的評価が90%を超える結果となった。

② A・B(肯定的評価)が低い項目(80%未満)について (R5→R6の変化)

4:あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか (74%→74.8%)

13:あなたは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか (59%→71%)

14:あなたは、家で読書をしていますか(宿題を除く) (49%→44%)

※ いずれの項目も、昨年度と同じ項目において、低い評価が見られた

(2) 昨年度との比較

① A・B(肯定的評価)の合計がある程度増加した項目 (R5→R6の変化)

1:あなたは、学校生活が楽しいですか (94% → 98%)

2:あなたは、学校生活での時間を守っていますか (93% → 98%)

10:あなたは、困ったことや心配なことを相談できる先生がいますか (87% → 91%)

13:あなたは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか (59% → 71%)

15:あなたは、学校や学年・学級へ提出するものを期限を守っていますか (82% → 87%)

18:あなたは、正しいあいさつを自分からしていますか (91% → 96%)

19:あなたは、家の人に学校のことを話していますか (82% → 86%)

20-2:(携帯・スマホについて)保護者と使い方のルールを決めていますか(66% → 70%)

② A・B(肯定的評価)の合計がある程度減少した項目 (R5→R6の変化)

12:あなたは、授業中、自分の考えを発表していますか (81% → 76%)

14:あなたは、家で読書をしていますか (49% → 44%)

(3) 3学期～来年度に向けた取組課題

① 肯定的評価が80%未満の項目の改善

4:あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか

13:あなたは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか

14:あなたは、家で読書をしていますか

② 携帯、スマホの使い方について、引き続き、保護者とのルールづくりを推奨

3. 保護者アンケート (105名実施)

(1) 保護者アンケートの特徴

① A・B(肯定的評価)の合計が90%以上の項目について

14項目(携帯・スマホに関わる質問項目は除外)中、7項目において、肯定的評価が約90%以上となっている。

- 1: お子さんは、楽しく学校生活を送っていると思いますか (96%)
- 2: 学校はいじめの未然防止や子供たちの間違った行動に対して、指導していると思いますか (90%)
- 5: 学校は、わかりやすい授業を行っていると思いますか (90%)
- 6: 学校は、お子さんが考えを発表する機会を持っていると思いますか (93%)
- 12: 学校は、各種便りやホームページ等を通して積極的な情報提供を行ったり、行事や授業を積極的に公開したりすることを通して、「地域に開かれた学校」となるよう努めていると思いますか。 (90%)
- 13: 学校は教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか (90%)
- 14: 学校は、防災・防犯・交通安全などの安全指導に努めていると思いますか。 (94%)

② A・B(肯定的評価)の合計が80%未満の項目について

14項目中2項目において、肯定的評価が80%未満となっている。

- 7: お子さんは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか (65%)
- 9: お子さんは、ご家庭で整理整頓ができていますか (50%)

③ 携帯・スマホに関わる質問

- 15: お子さんは、自分のスマートフォン(携帯)やタブレットを持っていますか (はい: 91%)
- 15-2: スマホ・携帯の使い方についてお子さんとルールを決めていますか (はい: 81%)
- 15-3: スマホを持たせている場合、ルールを決めていますか (はい: 81%)

(2) 昨年度との比較

① A・B(肯定的評価)の合計がある程度増加した項目 (R5→R6の変化)

- 5: 学校は、わかりやすい授業を行っていると思いますか (87% → 89%)

② A・B(肯定的評価)の合計がある程度減少した項目 (R5→R6の変化)

- 4: 学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか (95% → 85%) -10ポイント
- 12: 学校は、各種便りやホームページ等を通して積極的な情報提供を行ったり、行事や授業を積極的に公開したりすることを通して、「地域に開かれた学校」となるよう努めていると思いますか。 (95% → 90%)

Ⅱ まとめ(成果と課題)

「教職員自己評価」「生徒アンケート」「保護者アンケート」の結果から、今後、以下の事柄について改善をしていく必要がある。

(1) 学習保障と学力向上のための取組

【成果】

○昨年度から、「家庭学習への取り組み」については、先生方から学習への取り組みの方法の見直しや生徒の実態に合った課題提供等を行い、生徒も家庭学習に対して肯定的に取り組んでいるという結果が昨年度比 12 ポイント増となっている。今後も取り組みを各学年、各教科などで継続的に行い、さらに向上させていきたい。

【課題】

●家庭学習の取り組みについて、保護者の不安があることがわかる。

【対策】

- ・合唱活動や学園祭の取り組み方法等の行事の精選や実施形態の工夫をすすめ、生徒に十分な学力を保障できる教育課程を編成する。また、職員の業務改善にも留意することで、生徒と向き合う時間や教材研究等の時間を確保する。
- ・新学習指導要領に沿って、「主体的・対話的で深い学び」が行われるように教師が授業力を高め、授業改善に努める。同時に「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」などを育むために、小規模で小学校から固定化された特定の仲間以外との関わりを持つことが困難な人間関係を改善することができるように、グループ討議や体験を通じた学習、他人に教える経験等の共同学習から新たな人間関係を築くなど、多くの活動を実践することが大切である。これらをもとに校内研究で取り組み、安心して学校生活を送ることができるように、学級づくりを基本として、学習に向かえる体制づくりを行う。

(2) いじめ・不登校に対する取組

【成果】

○いじめを14件認知し、①解消している(12件)②一定の解消図られたが、継続支援中(2件)であった。
○年間30日以上欠席している生徒は10名いる。理由は様々であり、担任や学年等で個別に対応を行っている。
市の適応指導教室やフリースクール、別室登校など、その生徒の実態に合った登校スタイルも提供できるように本人や家庭と相談・連携を行う中で、継続指導を行い改善をはかる。

【課題】

●スマホ・携帯の所持率は、割合も高く、正しい使い方やルールの設定等を行っている反面、SNS等を背景とした人関係のトラブルが継続して起こっている。生徒指導の問題ではこれらのことが背景として起こっていることが多く、携帯・スマホは便利なものである反面、使い方を間違えると取り返しのつかないことになることを自分事としてとらえられるよう、使い方やルールについて生徒本人・家庭の意識を変えていく必要がある。

【対策】

- ・「学校いじめ防止基本方針」に則った取組を確実に行うとともに、毎年見直しを行う。
- ・引き続き、いじめの認知を積極的に行い、早期発見・早期対応に努めていく。
- ・いじめの未然防止の取組(授業づくり・集団づくり・居場所づくり・絆づくり)を継続していく。
- ・「いじめ対策委員会」を中心として、組織的な対応を行う。
- ・いじめ防止に繋がる道徳科の授業や道徳教育を充実させる。
- ・いじめの被害者や不登校生徒に寄り添いながら、相談(SCを含む)や家庭訪問等を行う。
- ・保護者との連絡を密に行うとともに、関係機関(児童相談所・南アルプス市・警察署・病院等)との連携をとりながら、指導を行う。
- ・携帯、スマホの使い方について、引き続き、保護者とのルールづくりを推奨する。

(3) 地域に開かれた学校づくり・コミュニティ・スクールの定着に向けた取組

【成果】

○保護者や地域の方々に教育活動へのご支援やご協力をいただくとともに、参観や来校していただく機会も増えた。

【課題】

●小中一貫校やコミュニティ・スクールについて保護者や地域住民にどのように理解、協力を得るか。

【対策】

- ・今年度行った、防災教育・防災学習、防犯安全講習などに地域の方を取り込む工夫をする。
- ・CS(コミュニティ・スクール)のめざすところなどを、職員・生徒・保護者、地域の方々に周知していく。
- ・学校運営協議会において、学校評価をもとにした学校経営方針を示し、理解を得る。その結果をPTAにおいて、保護者に周知する。